

【マウスピース矯正の副作用とリスクについて】

【矯正装置が直接的な原因となる場合】

- ① 矯正治療中に装置が頬の内側に当たり、傷がついたり、口内炎になったりすることがあります。また、歯が移動する際に痛みが生じることもあります。状況に応じて、歯科矯正用ワックスでの対処や、その他の対処を行います。
- ② 矯正装置を装着した直後や、ワイヤーを交換した直後に、痛みが生じる場合がありますが、大半は数日でおさまります。冷たいものを飲んだ時にしみる「知覚過敏」の症状が出る場合がありますが、数日で改善されます。長期間症状がおさまらない場合は、歯科医師にご相談ください。
- ③ 装置を装着している間、発音しづらかったりする場合がありますが、通常、数カ月で慣れます。

【金属アレルギー】

- ④ 矯正装置には金属素材が使用されていることが多いため、金属アレルギーのある方、金属アレルギーの不安がある方は、皮膚科でパッチテストなどを受けて、アレルギー源を特定し、歯科医師に伝えてください。また、矯正装置を装着後、皮膚や口腔の粘膜にアレルギー症状が起きた場合は、すみやかに歯科医師にご連絡ください。

【抜歯・麻酔】

- ① 矯正をしたい箇所に十分なスペースがない場合、健康上問題のない歯を抜歯することもあります。その場合、抜歯前に医師より治療についての説明をします。
- ② 抜歯する場合は麻酔注射を行います。麻酔薬には、心拍数・血圧を上げる成分が含まれているものもあり、心臓や血圧に問題がある方が使用すると、動悸・血圧上昇を起こす可能性があります。また、麻酔によって、悪心・嘔吐・アレルギー反応を引き起こすこともあります。
- ③ 麻酔が効いている最中は感覚が鈍くなっているため、頬を噛んだり、熱いものを飲んでヤケドをする場合があります。

【むし歯・歯周病】

- ① 長時間マウスピースを装着するため、むし歯や歯周病のリスクが高くなります。歯科医師よりブラッシング指導を受け、丁寧に歯磨きをする習慣を身につけましょう。歯科医院での、歯のクリーニングやフッ素塗布などのケアも効果的です。
- ② 基本的には、矯正治療中にむし歯や歯周病の治療はできません。矯正前にこれらの治療をしっかり終わらせる必要があります。矯正専門の歯科医院の場合は、一般的な歯科医院で、事前にむし歯・歯周病の治療を行うケースもあります。

〔治療終了後〕

(1)

矯正治療終了後、矯正箇所が元に戻る場合があります。

(2)

矯正治療終了して数カ月～数年経つと、噛み合わせが悪くなる可能性があります。噛み合わせが悪くなると、咀嚼障害・頭痛・肩こりなどの症状が発生することがあります。また、噛み合わせのバランスが崩れることで、「顎関節症」や「自律神経失調症」を発症するリスクが生じます。噛み合わせが原因でこれらの症状が出た場合は、噛み合わせの治療を行います。

〔その他〕

(1)

矯正治療は、治療の経過および治療後の見た目に個人差が大きく現れるのが特徴です。また、歯科医師との見解の相違が起こる場合もあるので、歯科医師としっかり話し合うようにしてください。

(2)

患者さんによっては、矯正治療が強いストレスとなる場合があります。

(3)

矯正治療中に、頭痛・首や肩のこり・吐き気・不眠・強い倦怠感などの症状が生じる場合があります。このような場合は、歯科医師の指示のもと、鎮痛剤や吐き気止めなどを服用していただくことがあります。

(4)

歯の大きな移動が必要な場合は、マウスピース矯正が適用できないことがあります。また、抜歯の必要がある場合、歯のねじれがある、奥歯の噛み合わせを調整するなどといった場合、マウスピース矯正以外の治療法を提案いたします。

(5)

マウスピースは自分自身で外すことができるため、つい外しがちになり、治療が計画通り進まない場合がありますので、ご注意ください。マウスピースは、歯科医師の指示にそって装着しましょう。

(6)

マウスピースは就寝時も装着しておく必要があるため、強い歯ぎしりの癖があると、マウスピースが割れてしまうことがあります。また、日常的に歯を食いしばる癖がある人も、同じリスクがあります。

(7)

マウスピース矯正は、毎回型取りが必要なケースもあります。その場合は、通院の回数が他の矯正方法にくらべて多くなることがあります。

(8)

歯や骨の状態、噛み合わせ、舌で歯を押す癖、むし歯や歯周病の発生などによって、当初の治療計画よりも治療期間が長くなる場合があります。

(9)

矯正治療では、歯肉が下がる場合（歯肉退縮）があります。特に切歯（せつし：上下前歯各4本）、歯の凸凹が大きい患者さんは、発症するリスクが高くなります。

(10)

矯正力が強すぎると、歯の根が短くなる「歯根吸収」が起こるリスクが高くなります。

(11)

一時的に固いものが噛めなくなることがあります。また、ガムや餅など、装置に引っかかりやすいものが食べられなくなることもあります。

(12)

装置が壊れる場合があります。その際は、歯科医師にご相談ください。

(13)

患者さんの状態によって、治療期間が数年かかる場合があります。

(14)

歯を動かして歯並びを改善する「動的治療」を終えても、まだ歯が元の位置に戻ろうとする力がはたらくため、一定期間動かした歯を正しい位置にとどめておく必要があります。歯の位置が安定するまでの期間は個人差があるので、治療後も歯科医師の指示を守ってください。